

福 井 県 医 師 会

だより

第635号 平成26年(2014)5月



新緑の田沢湖 福井市 吉村 信

表紙写真説明：新緑の田沢湖

福井市 吉村 信

新緑の、秋田県田沢湖を訪れた。曇天の、日本最深（423m）を誇る湖は、周囲の山々を映し、深緑色に静まり返っていた。一条の陽光が雲間から射した次の瞬間、水の色はトルコ石にも比すべき明るい瑠璃色に激変し、モーターボートに乗船していた一同から歓声があがった。田沢湖の「神秘の青」とは正しくこの色と確信した。

秋田藩主佐竹侯が田沢湖を訪れた際、記念として建立された「御座石」の銘のある朱色の鳥居が、ライトブルーの湖水に映り、山々の緑と絶妙のコントラストを見せた。

朱の鳥居 ^{うっ}映して碧し ^{あお}春の湖 ^{うみ}

醫 縫 録

あはみえた

医療関係者担当理事 柏原謙悟



突然、失語症になったかと思える表題です。自己流の接遇の5原則の覚え方です。「挨拶」、「話し方」、「身だしなみ」、「笑顔」、「態度」の5つです。昨年10月に初めて覚えた言葉です。以前から知っていたかのように大原スポーツ医療福祉保育専門学校の医療秘書コースで講義させていただきました。昨年6月に福井市医師会の理事に就任しました。なぜか県医師会の理事とセットといわれ、当初なんのことか分からず、県医師会の理事会に出席することだけかと思っていました。さにあらず、7月の県医師会の理事会初出席の折、大中会長から「前任者（現福井市医師会三崎明孝会長）の仕事を引き継いでもらいますがよろしいですか」と言われました。「よろしくない」とは言えず、医療関係者担当を引き受けました。早速、9月21日土曜日に平成25年度全国医師会医療秘書学院連絡協議会に甲府市へ行くことになりました。車で朝6時半に出発し中央道経由で甲府に到着したのは12時頃でした。医療秘書の具体的仕事、その必要性について、さらに教科書の改訂の話がありました。最初のことで議論に加わることはできませんでしたが、名刺だけは交換してきました。さらに10月、11月に医療倫理、健康と疾病について大原学園福井校で講義をして下さいとのことで教科書を渡されました。専門の脳神経外科に関することならいざ知らず、スライド作りが大変でした。接遇に関するメラビアンの法則などは知りませんでした。臨床研究におけるヘルシンキ宣言、患者の権利に関するリスボン宣言などは以前に病院機能評価対策で県立病院医局長時代に医局会で勉強したことを思い出しました。私事で恐縮ですが、診療所開設（8年経過）以来、医療秘書を横につけて電子カルテの打ち込みをしています。大原学園出身者が3名（うち1名はパート）で計5名の事務員です。電子カルテの打ち込みはモニターとキーボードを2組用いて、どちらからも入力できる

スタイルです。医療秘書の教育は大変ですが、最近では私が打ち込むことは激減し、患者さんとほとんど向き合いながら診察ができるようになりました。また、2人の目で見ることから入力ミスや処方ミスなどの防止にもつながっています。医師事務作業補助者は診療所では点数化されていませんが、点数がなくても診療に役立つ存在です。確かに甲府の協議会で似たようなスタイルで診療していると発表された方もいました。紹介状の作成、返書の作成、診断書の作成、さらに受付業務などもマスターしていくと強力な戦力になります。平成26年2月22日に平成25年度第2回ナースセンター事業運営委員会で委員長として出務させていただきました。その中で、病院では年配ナースが電子カルテの打ち込みが苦手な退職を希望するケースもあると聞きました。ナースの事務作業補助もしていけば年配のナースの雇用継続も可能になるのではないかと考えます。ナース不足はよく耳にします。実際、ナースセンター職業紹介状況は平成25年12月単月で798名の求人数に224名の求職者数です。平成25年4月～平成26年1月の10カ月で就職者359名です。福井公共職業安定所（ハローワーク）の看護師の労働市場動向（平成25年12月単月）では316名の求人数に85名の求職者数でした。平成25年4月～12月の9カ月で就職者数110名です。看護師不足に加えてマッチングの問題も大きいようです。労働環境の整備や採用に際して柔軟な勤務時間の考慮が必要かと思えます。担当理事として医療秘書の質の向上と普及、ナースの人材確保に微力ながら貢献できればと考えていますのでよろしくお願いいたします。